

4 日本語訳中渡し授業

(1) ◇◆◇日本語訳の利用◆◆◇

- ・日本語訳を配付して、生徒が訳を言ったり、教師が直したいする時間を短縮します。
- ・予習をさせるために先渡しではなく中渡し方式を行っています。
- ・穴を空ける場所、配付のタイミング、訳の種類について研究しています。

ア. 日本語の穴を空ける場所

穴を空ける場所・数	利点○, 欠点●
・穴をたくさん空ける	○内容や文法・語句などの重要な箇所を確認できる ●訳読と同じくらい時間がかかる
・穴を空けない	○内容理解にかける時間の短縮ができる ●日本語訳の中にタスクがないため、タスクの工夫が必要である
・内容的に重要な数カ所	○内容把握のタスクとなり英文を読ませることができる
・文法的に重要な数カ所	○重要な文法事項が含まれた英文の訳し方の確認ができる
・重要な文の1文訳	○和訳する力を養成できる ●時間短縮の効果は薄れる

それぞれに長所や短所があります。授業のねらいを明確にし、目的に応じて色々な方法を使い分けることが大切だと考えます。

イ. 日本語訳配付のタイミング

配付のタイミング	利点○, 欠点●
・概要把握の後すべて配付	○一度に全体の内容の確認ができる
・セクションごとに予習プリントとタスクとともに配付	○授業の進度に合わせて予習（家庭学習）のリズムがつかみやすい
・授業中に配付	○日本語に頼らない予習をさせることができる
・本文終了後に配付	○生徒自身の訳との比較ができる ●時間短縮の効果は期待できない

2年生はセクションごとに予習プリントの中のタスクの1つ(穴埋め)として前期まで配付しました。

1年生は予習での内容把握を確認するために、授業中に配付しています。

ウ. 日本語訳の種類

日本語訳の種類	利点○, 欠点●
・全訳	○自然に全体の内容の確認ができる
・スラッシュ毎の訳	○英文の構造に注目させることができ, 直読直解につながる ●全体の流れが取りにくい
・サマリー	○ポイントの把握がしやすい ○概要把握での利用 ●細かい部分の確認はできない
・部分訳(英語・日本語混在)	○英文の中に単語・熟語など部分的に日本語を入れたものを音読用シートとして利用

2年生は前期まで, 全訳を穴埋めのタスクとともに与えました。現在はサマリーを与えています。また, 部分訳を音読シート(置換読みシート)として与え, 音読の練習や単語テストに活用しました。

1年生では, 直読直解をめざしてスラッシュ毎の訳を与えています。

☆参考資料 置換読みシート

Lesson 4 Outside the Box 置換読みシート

Section 1

Ken: Dr. Adams, どうもありがとうございます for taking 時間 for this インタビュー. You have written 多くの books on どうすれば独創的になれるか. What 正確に do you 意味する by being “独創的”?

Dr. Adams: By “独創的” I 単に 意味する being able to 思いつく new 解決策 to 問題 for which there are no 簡単な解決策. Being 独創的 means 見つけること new 方法 to look at the 世界.

Ken: I だろうか why こんなに多くの people 近頃 are ~に興味がある being 創造的.

— 以下省略 —

※連語の場合アンダーラインをつけています。

☆参考資料 置換読みシートを利用した小テスト

①~⑩の日本語を英語に直しなさい。

Section 2

Ken: 面白そうですね. I like パズル.

Dr. Adams: OK. Here's the パズル. The 問題 is ①かどうか you can 引く 4本以下の 直線 which will 横切る through all nine dots ②持ち上げないで your 鉛筆 from the 紙.

Ken: Hmm. ③ええと. You said four 直線, without 鉛筆を持ち上げる — that's 不可能!

— 以下省略 —

(2) ◇◆◇タスク◆◆◇

- ・日本語訳を渡すということは、すなわち様々なタスクを課す授業をするということです。
- ・各タスクは一部を除いて基本的に予習プリントに示されており、生徒は予習をしてくるようになっています。
- ・ここに挙げられているタスクをすべて行うわけではなく、組み合わせて行っています。
- ・生徒がタスクに慣れると教師の指示がなくても活動がスムーズに行えるようになりますが、あまり慣れすぎるとマンネリになって効果が薄れてしまいます。そのためレッスンごとにタスクを変えています。まだまだ試行錯誤中です。

主に現2年生がこれまで行ってきたタスクを紹介します。

Hughes によるリーディングの分類(→ページ)を参考にしながらタスクを考えています。

ア. 全体の概要把握で行うタスク

アー1 スキーマの活性化のためのタスク

①. タイトルや挿し絵の利用

レッスンのタイトルや挿し絵・写真を見て、何について書かれてあるのか想像させて日本語で書かせる。

②. 知っている単語を書く

トピックについて知っていること、思い浮かぶことを英語(単語でよい)で書かせる。

イー2 内容理解のためのタスク

①. セクションのタイトル選択

英文を読んで各セクションごとに、与えてあるタイトルのリストの中からふさわしいものを選ぶ。

②. パラグラフ整序

日本語の要約を読んで、バラバラになったパラグラフを正しい順序に並べ替える。グループワークで行い、要約は活動後に回収する。

③. トピックセンテンス探し

各パラグラフのトピックセンテンスを探させる。特にパラグラフの最初の文に注目させる。

④. メインアイデア探し

各セクションのメインアイデアとなる文を探させる。

⑤. 要約の完成

要約文の（ ）に適切な単語を入れて完成させる。

イ. 各セクションごとのタスク

現在、特に下記⑦、⑧、⑨についてグループやペアで活動を実践しています。

①. 語彙の確認

(a) ペアワークで確認とインプット

一方が英語を読んで、もう一方が日本語を言う。日本語から英語でもよい。

(b) ワードハント（「教師→生徒」だけでなくペアやグループでも実施可能）

発音された単語を英文の中から探す。

日本語の意味を言って英文の中から探す。

単語の定義（英英辞典を利用）を言って英文の中から探す。

②. スキャニング

(a) 最も多く出てくる単語を探させる（キーワードを探させる）。

(b) “ ” のついている部分に線を引かせる。

(c) コンマで挿入されている部分に線を引かせる。

(d) 数字や登場人物の名前を探させる。

(e) シグナルワード（ディスコースマーカー）を探させる。

単に探させるだけでなく探させたものが英文の中でどのような意味を持つのか考えさせる活動につなげることが大切です。

③. サーチリーディング

指定した情報を速く見つける。

例 このセクションには独創的な解答が3つ挙げられています。それらを簡潔に述べている言葉をそれぞれ4語以内で探し、○で囲みなさい。(CROWN II L4 S3)

④. スラッシュリスニング

・CDを聞きながら息継ぎが起こっているところにスラッシュを入れる。

⑤. 英文の構造把握

・英文に記号を付けさせる。(主語に____, 動詞に○, 接続詞に□)

⑥. 日本語訳穴埋め

・日本語訳の（ ）を英文と見比べながら埋める。

⑦. 主体的判断

・生徒の意見を求めるタスク。正解は1つではない。

(例) あなたはWal-Rusをwiseだと思いませんか、それともstupidだと思いませんか。

そう思う根拠となる英文に下線を引きなさい。(CROWN I Reading 1)

⑧. T/F問題

(a) リスニングにより行う。

(b) T/F問題をディクテーションさせて行う。

(c) 生徒に予習で作成させておき、ペアで問題を出し合う。

⑨. 英問英答

- (a) 英問に対する答えにあたる英文に線を引かせる。
- (b) 英問に対して、きちんとした文で答えさせる。

⑩. サマリー

- ・英文サマリーの穴埋めをする。
- ・英文サマリーを書く。

☆参考資料 リーディングの分類

リーディングの分類 Hughes (2003, 138-139)

(1) 速読 (expeditious reading)

① スキミング

- ・メイン・アイディアと主題を素早く能率よく得る、
- ・テキスト [=本文] の構造を素早く捉える
- ・テキストまたは一部が自己の必要性にマッチしているかを決める

② サーチ・リーディング

- ・予め決めた主題について情報を素早くみつける

③ スキャニング

- ・特定の語や句、数字や%, 索引の中の特定の名前を素早く見つける

(2) 細心読み (careful reading)

- ① 代名詞の指示, 談話マーカー (論理を展開する上で重要となる語句, for example, in other words, but, therefore), 複文を確認する
- ② 主題文を解釈する
- ③ テキストの論理的構造, 議論の展開を概略できる
- ④ 例と一般的な説明を区別する
- ⑤ 明示的・暗示的に述べられたメイン・アイディアを確認する
- ⑥ 書き手の意図, 態度・感情がわかる
- ⑦ テキストのための対象者 (相手), どんなテキストが関係しているのか (社説, 日記など) がわかる
- ⑧ 事実と意見の区別, 仮説と事実の区別, 事実とうわさの区別ができる
 - 推測する ア 文脈から未知語の意味を推測する
 - イ who, when, what で始まる質問に答えて, *命題的情報の推測をする
 - ウ why, how から始まる質問に答えて, 動機・原因, 結果と必要条件に関して命題説明的な推測をする
 - エ *語用論的な推測をする

* 命題的情報の推測: テキストの外の情報に頼らない推測 (例 John が Mary の兄 (弟) の場合, Mary は John の妹 (姉) だと推測できる。

* 語用論的な推測: テキスト外からの知識とテキストからの情報を組み合わせて行う推測 (例 It took them twenty minutes by road to get from Reading to Heathrow airport. では彼らが大変素早く行けたと推測するためには, Reading と Heathrow 空港の2つの場所が近くないということを知っていなければならない。

(3) ◇◆◆音読◆◆◆

・英文の理解を深めるためにも、記憶に残し定着させるためにも音読は有効な活動だと考えています。

・目的に応じて様々な音読方法を使い分け、が飽きないで取り組めるようにしています。

・音読方法の使い分けとともに、時間を計って競争させたり、穴あきの音読シートを使ってペアで助けあわせたり、間違えた箇所を教えさせたりするのも楽しい活動になります。

本校で行っている音読活動の方法と利点を紹介します。

	名称	方法	利点
1	Chorus reading	教師やCDの後をつけさせて、全員で声を揃えて音読する。	発音などをきちんと確認するのによい。
2	Buzz reading	全員で音読するが、Chorus readingと異なり各個人のペースで読む。時間や回数を決めて読ませる。	各人のペースで練習できる。
3	四方読み (二方読み)	Buzz reading の一種。起立して読み、1回読み終わるごとに90度ずつ向きを変え、4回読み終わったら着席する。2回だけ読ませたいときは、1回目が終わったら後ろを向かって2回目が終わったら着席させればよい。	生徒が何回目を読んでいるのが一目で把握できる。競争をさせるのもおもしろい。
4	Look up and say	Read and look up とも呼ばれる。英文を黙読し、顔をあげて英文を見ないで言う。ペアワークに適しているが教師が指示を出して全体でも行える。英文を言うときは、教科書を背中にまわして見ないようにして言わせるとよい。	テキストを見ずに英文を言うので speaking への橋渡しの役割をもっている。
5	Twice reading	Look up and say のバリエーション。英文を見て読むとき、黙読ではなく、音読する。	全体でする場合、Look up and say よりコントロールしやすい。
6	Shadowing	同時通訳養成の訓練法のひとつで、聞きとった英語のすぐ後について声に出し影のようについていく読み方。ヘッドセットのある環境で行うのがベストであるが、教室でCDをかけて一斉に行う場合は生徒が大きな声を出すほど、モデルの音が聞きづらくなるので、Mumbling にするとよい。	聞き取った音の意味を瞬時に把握しなければならないので、リスニングの訓練になる。流れる英語のスピードについていかなければならないのでスピーキングの訓練になる。
7	Shadow reading	テキストを見ながら Shadowing を行う方法。Shadowing よりも取り組みやすい。	リスニング訓練の要素は薄れるが文字の音声化の練習になる。
8	Paced reading	Simultaneous reading とも呼ばれる。CDやALTの音声と合わせて音読させる方法。やや遅らせて読むと Shadow reading になる。	スピード、イントネーションなどを意識させることができる。